

### 3月度の観察記録

カテゴリ : 2020年

\_MD\_POSTEDON投稿者: [Zz.admin](#) 掲載日: 2020-3-8

2020年3月度の観察記録です。

```
Untitled Page .auto-style1 { text-align: right; } var gaJsHost = (("https:"  
== document.location.protocol) ? "https://ssl." : "http://www.");  
document.write(unescape("%3Cscript src='" + gaJsHost + "google-analytics.com/ga.js'  
type='text/javascript'%3E%3C/script%3E")); var pageTracker =  
_gat._getTracker("UA-3205823-1"); pageTracker._initData(); pageTracker._trackPageview();
```

2020年3月8日(日) 9:30~12:00 作成: 田畑恭子 監修: 瀧川正子  
写真協力: 伊藤義人氏

参加者: 大人8名 天気: 雨 2019年12月に中国で最初の症例が報告されて以降、急速に世界規模で流行を拡げる新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、今月の自然観察会は中止となりました。その代わりに2020年3月の記録を残すことを目的として自然観察指導員と有識者による記録会をおこないました。その記録を記します。歩き始めて最初に目についたのは、**アベマキの幹を泡が流れ落ちている様子**でした。この日は随所でこの泡が見られ、長年この森を歩いている参加者も初めて目にする不思議な現象でした。この日降り続いていた雨と関係がありそうなことは予想できました。のちに調べたところ木の幹の表面を伝って落ちる雨、「樹幹流」が樹皮に付着したさまざまな物質を含んで流れ落ちることで泡立ちができるということでした。**コバノミツバツツジ**は早くも花を咲かせていました。また**タカノツメ**はちょうど芽吹き始めたところでした。





アベマキの幹を流れ落ちる泡 コバノミツバツツジ タカノツメ 続いて観察したコクランは、暗い森の林床に現れることが多いとのことでした。トウカイコモウセンゴケ、ミズスギが同時に観察できる場所があり、そこは夏でも水が枯れず湿った状態が保たれているとのことでした。



コ克蘭 トウカイコモウセンゴケ ミズスギ **モチツツジ**もつぼみがふくらみ、開花までもう少しと思われました。足元の**ノビル**はネギの仲間の植物ですが、葉の内側がくぼんで溝ができていのが見分けるポイントとのことでした。開始時刻からオタマジャクシ池の上段で雨に濡れながら佇んでいた**アオサギ**が、近づいて写真を撮ろうとすると飛び立ちました。



**モチツツジ** **ノビル** 飛翔する**アオサギ** **マサキ**のふくらんだ**新芽**とまだ固いつぼみ、そして去年の実がついているのを観察しました。足元に目を移すと**ヒメオドリコソウ**や**ムラサキサギゴケ**がピンク色の花を咲かせていました。ムラサキサギゴケは里山の家で見た図鑑には**ゴマノハグサ科**とされていましたが、のちに調べると新分類では**ハエドクソウ科**に移されたとありました。



マサキの新芽 ヒメオドリコソウ ムラサキサギゴケ また、カラスノエンドウとスズメノエンドウが混在している場所がありました。カラスノエンドウの葉は幅が広く丸みを帯びた印象ですが、スズメノエンドウは葉が細長く見分けるのは簡単でした。どちらも先端に巻きひげがついていました。そのすぐそばに別の場所から移植した柑橘類の木が3本ありました。そのうち大きな葉をつけた2本はナツミカンではないかとのことでした。



カラスノエンドウ スズメノエンドウ 柑橘類 **ビワ**の花はすでに終わり小さな実がつき始めていました。新芽は白っぽく真上に向かって立ち上がっており、触ってみると固い毛に覆われていました。周辺で**ツクシ**を探すと次々と見つかりました。またたくさんの**ヤブジラミ**が芽を出していました。





ビワの新芽 ツクシ ヤブジラミ ヨモギもたくさん見つかりました。ヨモギの葉は裏が白っぽいのがよく目立ちました。その近くにある柑橘類はユズとのことでした。オタマジャクシ池の近くではタネツケバナが小さな花をつけているのが見られました。





ヨモギ ユズ タネツケバナ 2月の自然観察会で卵を観察したニホンアカガエルは小さなオタマジャクシになっていました。2月に見た卵の数に比べるとオタマジャクシはずいぶん数が少なく、この日見かけたアオサギも食べるかもしれないとのことでした。雑木林の中に入って越冬中のホホジロアシナガゾウムシを見に行きました。この日の参加者の一人が1月に見つけて以来観察を続けてきたものでした。雨に濡れていましたがカクレミノの枝にじっとしがみついていた。倒木の切り口にはサルノコシカケの仲間が生えていました。





ニホンアカガエルのオタマジャクシ ホホジロアシナガゾウムシ サルノコシカケ その他ミヤマ  
ガズミのつぼみ、ガズミの新芽、イヌザンショウの冬芽を続けて観察しました。

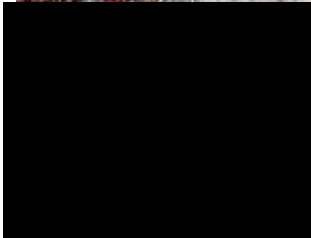




ミヤマガマズミのつぼみ ガマズミの新芽 イヌザンショウの冬芽 冬に実をつけるヤブコウジですが、すでに落ちたあとなのか実は見当たりませんでした。同じ場所でマンリョウやヒイラギの実生が見られました。



ヤブコウジ マンリョウの実生 ヒイラギの実生 炭焼き広場イ移動セザクラを観察しました。ちょうど満開で、鼻を近づけるといい香りがしました。また東側の地層（東海層群矢田川層猪高部層）が礫層とシルト層に分かれているのを見ました。



イザヨイザクラ 東海層群矢田層猪高部層 炭焼き広場のユキヤナギは花が咲き始めていました。そのユキヤナギにはイセリアカイガラムシが多数ついていました。せせらぎ沿いに移動してカラタチの根元の実生の小さな木を確認しました。思いがけずたくさん生えていて、放っておくと大きく育つのが難しいので、保護することも検討しているとのことでした。





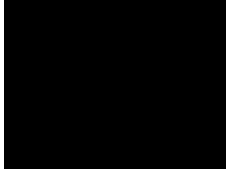
ユキヤナギ イセリアカイガラムシ カラタチの実生  
折野鳥の声が聞こえていました。ジョウビタキやコサギ、

カルガモの姿も見ることができました。





ジョウビタキ コサギ カルガモのつがい **ヒメカサネ**が定着している場所を見に行き、多数の葉や花を確認しました。最後に**タマカイガラムシ**がたくさんついているハクバイの木を観察しました。一見カイガラムシの成虫だけが目立ちましたが、写真を撮って拡大すると孵化したばかりの**幼虫**がびっしりとついているのがわかりました。



ヒメカンアオイ タマカイガラムシとその幼虫 雨の中でしたが寒さはそれほど気にならず、  
確実に季節が移っているのを感じました。天候のせいもあって昆虫の姿がほとんど見られず、久し  
ぶりに多くの植物と向き合うことができました。新型コロナウイルスの今後は計り知れませんが、  
早く日常が戻って来ることを願うばかりです。 ?

平和公園での観察項目：アオサギ, アベマキの幹を流れ落ちる泡, タカノツメ, コバノミツバツツジ,  
コ克蘭, トウカイコモウセンゴケ, ミズスギ, ノイバラ, モチツツジ, ノビル, マサキ, ヒメオドリコ  
ソウ, カラスノエンドウ, スズメノエンドウ, ムラサキサギゴケ, ナツミカン, 柑橘類, ヤブジラミ, ヨモ  
ギ, ミモザ, ツクシ, ビワ, タネツケバナ, ニホンアカガエルのおたまじゃくし, ユズ, ホホジロアシナガ  
ゾウムシ, サルノコシカケ, ミヤマガマズミ, ガマズミ, イヌザンショウ, ヤブコウジ, ヒイラギ, マンリ  
ョウ, 東海層群矢田川層猪高部層(炭焼き広場), イザヨイザクラ, ユキヤナギ, イセリアカイガラムシ,  
ジョウビタキ, コサギ, カラタチ, カルガモ, ヒメカンアオイ, タマカイガラムシ  
?